

主催: 日本精神分析インスティテュート福岡支部

運営委員長 : 西園 昌久

精神分析セミナー2014 年度(1年次)へのご挨拶

日本精神分析インスティテュート福岡支部 運営委員長 西園 昌久

日本精神分析協会では精神分析治療を行うことを志す方々への訓練研修と資格認定のシステムを定めています。具体的には精神分析家コースと精神分析的な精神療法家コースです。前者は日本精神分析協会が加盟している国際精神分析協会 International Psychoanalytical Association (IPA と略称) の会員になるためにその基準に沿って実施されるものです。後者は、IPA 会員になることを志すわけではないが、わが国の精神分析的な精神療法ニーズに応えるにふさわしい人材を育成するためのものです。いずれのコースも教育分析、スーパービジョンに加えて精神分析の定義、理論、技法についての講義、つまりセミナーが準備されています。そのようなシステムを適切に運営するために、当協会ではインスティテュートを設け、現在では東京と福岡とに支部をおいています。

福岡支部は 18年前から「精神分析セミナー」を開講し上述の研修訓練コースに入られた方以外の臨床家に開放しました。と云うのも心の障害とその治療には精神分析についての正しい理解が不可欠と思われるからです。これまで、3年間計18回(36日)のセミナーの中で、精神分析の定義、歴史、理論、技法、発達論、病態理解、症例研究を学習されました。そして受講者の皆さんは「よい治療者」になるための基本について理解をふかめられたと思います。多くの方の要望に応じて、第7期コースを開催することになりました。講師には福岡支部所属の古参、新進の精神分析家のみならず東京はじめ全国から出講していただくことにしていますので、聴講される方は現在の日本を代表する精神分析家の講義をお聞きになれると思います。なお、3年間のコースを修了された方にはアフターケアの目的からコース終了後の4月に「修了者セミナー」を開催しています。

以上ご案内いたします。

2014 年度の開講予定

* 2014 年度は 6 回開講する予定です。各回とも土曜日(15:00～ 20:00)と日曜日(9:30～12:30)を使つての開催となります。

第1回『精神分析理論の基礎』

(コーディネーター: 北山 修)

精神分析は100年の歴史を経て大きく変わった部分があれば、全く変わらないものもあります。それは人間の成長のごとく、理論を語るものの考え方や、時代、生き方を反映しながら発達してきました。ここでは、“精神分析の本質とは何か”を問いたいと思います。

平成 26 年 5 月 10 日(土)

①精神分析とは何か

講師: 北山 修(北山精神分析室)

I) 精神分析の諸特徴 II) 無意識と言語化 III) 学派の違い

◆参考図書: 北山修『精神分析理論と臨床』(誠信書房)、北山修『劇的な精神分析入門』(みすず書房)

②精神分析小史

講師: 前田 重治(九州大学名誉教授)

I) 催眠と無意識 II) 精神分析の系譜 III) 精神分析の年表

◆参考図書: 前田重治『図説・臨床精神分析学』『続図説・臨床精神分析学』(誠信書房)

平成26年5月11日(日)

③フロイト理論入門

講師:北山 修(北山精神分析室)

I)フロイトの人生 II)その読み方・書き方 III)技法と理論の変遷

◆参考図書:P.マホーニー著『フロイトの書き方』(北山修監訳、誠信書房)、北山修『最後の授業』(みすず書房)、北山修『評価の分かれるところに』(誠信書房、2013)

④総括

第2回『無意識と精神分析』

(コーディネーター:鈴木智美)

精神分析は、無意識を扱う学問であり、臨床です。今回は、日本における精神分析の歴史をひもとき、無意識とは何か、その手がかりとなるもの、夢、象徴機能といった精神分析の基盤となる概念について学びます。

平成26年7月12日(土)

①日本における精神分析

講師:前田 重治(九州大学名誉教授)

I)わが国の歴史 II)日本の現況 III)日本の特徴

◆参考図書:小此木啓吾『日本精神分析学会—その歴史と現況』最新精神医学、6(5)489-497(2001)、『精神分析研究』48巻「50周年記念特集増刊号」(2004)

②無意識の発見

講師:鈴木 智美(精神分析キャビネ)

I)フロイトが見出した無意識 II)日常生活にみる無意識 III)臨床での取り扱い

◆参考図書:フロイト著作集4『日常生活の精神病理』、フロイト著作集6『無意識について』(人文書院)

平成26年7月13日(日)

③夢と象徴機能

講師:岡田暁宜(南山大学)

I)フロイト『夢判断』 II)象徴と象徴過程

◆参考図書:フロイト著作集1『精神分析入門』、フロイト著作集2『夢判断』(人文書院)

第3回『治療としての精神分析の基本』

(コーディネーター:松木 邦裕)

精神分析は実践の方法であり、その上に成り立つ学問であります。臨床活動としての精神分析療法、精神分析的な心理療法を行う際の基本的な設定、態度、技法、関係性等を紹介いたします。

平成26年9月13日(土)

①治療の枠組みと治療者の基本

講師 鈴木 智美(精神分析キャビネ)

I)治療構造 II)治療対象の見立てと治療契約 III)治療者の基本的態度

◆参考図書:小此木啓吾他『精神分析セミナー I 『精神療法の基礎』(岩崎学術出版社)、馬場禮子『精神分析的な心理療法の実践』(岩崎学術出版社)

②耳の傾け方と言語的介入技法

講師 松木 邦裕(京都大学)

I)耳の傾け方 II)さまざまな介入とその功罪 III)解釈

◆参考図書:松木邦裕『私説 対象関係論的心理療法入門』(金剛出版)

平成26年9月14日(日)

③治療者—患者関係

講師 松木 邦裕(京都大学)

I)治療者—患者関係の性質 II)転移 III)逆転移 IV)転移—逆転移

◆参考図書:松木邦裕『精神分析臨床家の流儀』(金剛出版)

④総括

第4回『フロイトの精神病理学の基礎』(コーディネーター:福井敏)

フロイトの病理学については、不安—防衛論、精神性発達論、自己愛論、対象喪失論などが、基本的な基礎をなしている。ここでは各講師が、それぞれの主題に関してフロイトの原著を中心に解説する。

平成26年11月15日(土)

①発達—退行モデル、不安—防衛モデル、性欲論 講師:妙木浩之(東京国際大学)

◆参考図書:小此木啓吾『フロイト』(講談社文庫)、妙木浩之『大人のための精神分析入門』(PHP 新書)、アイヴァン・ワード『マンガ精神分析入門』(講談社ブルーバックス、小林司 訳)

②自己愛論の展開

講師:福井敏(精神分析研究室②)

◆参考図書:フロイト『レオナルド・ダ・ビンチの幼少期のある思い出』高橋義孝訳、フロイト著作集3(人文書院)『ナルシズム入門』懸田訳、著作集5(人文書院)

平成26年11月16日(日)

③フロイトの対象喪失論

講師:古賀 靖彦(油山病院)

◆参考図書:「喪とメランコリー」(1917)『フロイト全集14』(岩波書店)、「自我とエス」(1923)『フロイト全集18』(岩波書店)

④総括

第5回「フロイトの精神分析技法の基本的概念」(コーディネーター:古賀靖彦)

フロイトの精神分析技法の基本的概念が述べられます。また、こうした古典技法で論じられてきたことが、現代精神分析の中でどのように評価されているかについても触れられます。

平成27年1月10日(土)

①行動化

講師:川谷大治(川谷医院)

◆参考図書:「日常生活の精神病理学」(1901)『フロイト著作集4』(人文書院)、『境界性パーソナリティ障害(日本版治療ガイドライン)』(金剛出版)、『精神分析の基礎知識 患者と分析者』(誠信書房)

②抵抗論/陰性治療反応

講師:古賀 靖彦(油山病院)

◆参考図書:「自我とエス」(1923)『フロイト全集18』(岩波書店)、「制止、症状、不安」(1932)『フロイト全集19』(岩波書店)、サンドラー『患者と分析者 第2版』(誠信書房)

平成27年1月11日(日)

③解釈とワーキングスルー

講師:藤山直樹(上智大学)

◆参考図書:「想起、反復、徹底操作」(1914)『フロイト著作集6』、「分析医に対する分析治療上の注意」(1912)、「転移性恋愛について」(1914)『フロイト著作集9』(人文書院、あるいは岩波書店・フロイト全集の該当論文)、サンドラー『患者と分析者 第2版』10章と12章(誠信書房、2008)

④総括

第6回『フロイトの症例』（コーディネーター:西園 昌久）

精神分析の学習は症例にはじまり症例に戻る。フロイトは症例を通じて何を語ったのであろうか。しかも、精神分析の発達の歴史の中でフロイトの症例はどのように見直されているのであろうか。今回はフロイトが詳述した5症例の中の早期の3症例を取りあげる。

平成27年3月14日(土)

①症例 ヒステリー研究より『ドラ』他 講師:西園 昌久(心理社会的精神医学研究所)

I) 症例報告 II) ヒステリー理解と欲動論 III) フロイトの治療態度と転移

◆参考図書:フロイト著作集5『あるヒステリー患者の分析の断片』P. マホーニ『フロイトの書き方』

マーク・カンザー／ジュール・グレン、馬場謙一訳『フロイト症例の再検討／ドラとハンスの症例』(金剛出版) 西園昌久;フロイトはなぜ治療に失敗したか、精神分析研究41(2)1~2, 1997、岩崎徹也;「あるヒステリー患者の分析の断片」-「症例ドラ」西園昌久(監修)現代フロイト読本1;114-130、みすず書房、2008

②症例 『少年ハンス』『鼠男』 講師:永松 優一(福間病院)

I) 症例報告 II) フロイトの治療記録、エディプス・コンプレックス III) フロイトに治療の意義と批判

◆参考図書:フロイト著作集5『ある5歳児の恐怖症分析』、フロイト著作集9『強迫神経症の1症例に関する考察』、マーク・カンザー／ジュール・グレン、馬場謙一訳『フロイト症例の再検討／ドラとハンスの症例』(金剛出版、1968)、北山修『フロイト『ねずみ男』精神分析の記録』(人文書院、2006)

平成27年3月15日(日)

③症例 『狼男』『シュレーバー』 講師:松木 邦裕(京都大学)

I) 狼男の症例報告 II) 原光景と終わりなき分析 III) シュレーバーの手記

IV) フロイトの解析と精神病の精神分析

◆参考図書:フロイト著作集9『ある幼児神経症の病歴より』(人文書院)、フロイト著作集9『自伝的に記述されたパラノイア(妄想性痴呆)の一症例に関する精神分析的考察』(人文書院)

④総括

⑤講師と自由に語る 西園・松木